

巻 頭 言

IAMAP '93の開催を迎えるにあたって

理事長 浅井富雄

理事長を再びお引受けすることになりました。前期と同様引続き会員の皆様方の御協力御支援をお願いします。

世界各国とも程度の差はあれ気象学が気象事業と相携え、互に補い合ながら発展してきました。日本気象学会は1882年(明治15年)、東京気象台内に本拠を置く東京気象学会に端を発し、その後、紆余曲折を経ながら長年に亘って、気象官署での調査研究がとりもなおさず気象学会の活動でもありました。気象学会員の圧倒的多数が気象台職員によって占められていたことの反映であります。会員数が4000人を越える今日、そのほぼ半数が大学、国や地方自治体、民間等の試験・研究機関、その他種々の組織に所属する会員であり、気象庁職員と若干の国立大学教官から成るといふかつての学会はその姿を大きく変え、多様な会員で構成されるようになりました。このことは気象学がそれ自体に内在する学術的発展に伴って、一方で対象分野が拡大し、他方で細分化・深化することの必然的帰結であり、また、気象に対する社会の関心・要請の増大の反映でもあります。気象学は今後ますます発展する可能性を秘めた学問分野であるといえます。

気象学会に対する学会内外の要望は質的に高度化し、量的に増大し、その内容も多様化しつつあります。これらに迅速に且つ的確に対応するには、学会の(1)組織・運営の改善と(2)学術的水準の一層の向上を図らなければなりません。

(1) 組織・運営について

これまで、財政基盤の確立と事務局の強化に意を注ぎ、組織の安定化をはかってまいりました。現行の役員体制は実情に合わなくなっているため、学会の基本原則を変えない範囲で組織の柔軟性と機能の向上を目指して、目下理事選任方式の改善を検討しつつあります。即ち、選挙で選出された理事の他に若干名を理事会の推薦により総会の信任を経て委嘱する、というのが基本的考え方です。気象学会の良き伝統を継承しつつ、時代の要請に適切に対応し得るよう、理事の選任方式を広く会員の御意見を伺いつつ、成案が得られ

第、総会に提案したいと思っています。

主に気象庁上層部、大学教授等学会の長老から成るこれまでの評議員会の在り方を見直し、学会を取り巻く内外の情勢に鑑み、種々の機関、組織、階層、分野、性別、年齢にかかわらず官学民から、幅広く意見を伺い学会運営に反映させるべく、前期から新しい試みを実施しています。

(2) 学術水準の向上

春・秋の大会における研究発表が年々増加・充実しつつあります。さらに、大会に併せて開かれるテーマ別の研究会も活況を呈しています。これまで長年にわたり、3会場・3日間の制約のもとに、大会の運営について様々な工夫を凝らしてきましたが、遂に昨年からは4会場に踏み切りました。総合計画・講演企画担当理事を中心にして慎重に検討を重ね、不都合のないよう準備してまいりましたが、なお改善すべき事項について御教示いただければ幸いです。このように、本学会の研究活動が益々活発化しつつあることは喜びにたえません。このことが、『気象集誌』(JMSJ)、『天気』等学会誌の質的・量的な向上・充実に反映されるよう会員の皆様の一層の御努力をお願いします。

近年、社会の高度情報化に伴い、気象情報に寄せられる一般の人々の要望は多様化しています。これに対し、気象の予測技術も情報処理技術の活用により高度化が進められ、また、情報ネットワークの構築等により情報提供手段も高度化しています。本学会は気象の教育・普及の面からもこの動向には関心があります。応用研究や技術開発にも力を注ぎ、その成果をどしどし発表することによって社会の要望に応えなければなりません。学会誌はそのような論文の投稿を大いに歓迎します。

本学会の充実・強化は必然的に世界の気象学界から国際的貢献への期待が一層高まります。1993年7月横浜でIAMAP第6回総会がIAHS第4回総会と合同で開催されることは既によく御承知の通りですが、いよいよ半年後に迫って参りました。昨年10月、総会全体の構成・諸行事等を盛り込んだsecond circularが

皆様のお手元に届けられました。昨年1月に発足した組織委員会のもとに、事務局（気象研究所）や実行委員会の委員が中核となり多くの関係各位の御協力を得て準備にあたっています。「国際学術交流基金」を活用した、細々とではあるが長期的な国際交流への支援活

動と併せて、本国際研究集会在将来の世界の気象学界の発展に寄与できることを願っています。献身的に準備にあたられている関係者に感謝すると共に、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
「オホーツク海と流水」国際シンポジウムおよび国際宇宙年・極域水圏ワークショップ	1993年1月31日 ～2月5日	オホーツク海・氷海研究グループ、宇宙開発事業団、欧州宇宙機関、紋別市、北方圏センター	紋別市市民会館・文化会館（紋別）	Vol. 39, No. 8
地球圏-生物圏国際共同研究（IGBP）シンポジウム「日本のIGBP研究の現状と将来」	1993年2月8日 ～9日	日本学術会議	日本学術会議講堂（東京）	
1993年日中砂漠化機構解明研究シンポジウム	1993年3月2日 ～4日	科学技術庁	科学技術庁・研究交流センター（つくば市）	Vol. 39, No. 9
第39回風に関するシンポジウム	1993年3月4日	土木学会、日本気象学会他	土木学会・土木図書館講堂（新宿区）	Vol. 39, No. 10
地球惑星関連学会1993年合同大会	1993年3月19日 ～22日	地球惑星関連学会の6団体	東京都立大学教養部（八王子市）	Vol. 40, No. 2
日本農業気象学会1993年度大会	1993年4月1日 ～3日	日本農業気象学会	お茶の水女子大（東京）	
「自然科学と経済における予測可能性と非線型モデリング」の国際会議	1993年4月5日 ～7日	Wageningen 農業大学	Wageningen 市国際農業センター（オランダ）	Vol. 40, No. 1
日本気象学会1993年度春季大会	1993年5月17日 ～19日	日本気象学会	気象庁、KKR 竹橋（東京）	
第7回太平洋学術中間会議	1993年6月27日 ～7月3日	日本学術会議、日本気象学会他	宜野湾市、那覇市	
IAMAP-IAHS '93 合同国際会議	1993年7月11日 ～23日	日本学術会議、日本気象学会他	横浜国際平和会議場（横浜市）	
第25回国際水理学会会議	1993年8月30日 ～9月3日	第25回国際水理学会会議国内組織委員会、土木学会	京王プラザホテル（東京）	